

雨水利用を進める全国市民の会  
会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島1-8-1

TEL: 03-3611-0573

FAX: 03-3611-0574

H.P: <http://www.network.sumida.tokyo.jp/amamizu/>

# あまみず

## ニュージーランドの 雨水利用を見る

—'99年の挨拶にかえて

### ◆ 会長 辰濃 和男

私たちの会も今年で5年目を迎えました。皆さんひとりひとりの底力で会は着実に成長を続けてきました。国際的なつながりがさらにまし、専門家集団への道も開け、自治体間の交流も盛んになりました。雨水カレンダー、雨水の事典作成、子ども会の活動も活発です。「より多くの人によりよい雨水タンクを」の志のもとに今年も前へ進みましょう。

二月、ニュージーランドで全村雨水利用の様子を見学してきました。オークランド北方のライという村です。3、4千の人びとすべてが、雨水だけで暮らしています。私の泊まったホテルもむろん、飲料水、シャワー、その他の雑用水、すべて雨水です。海の見渡せる丘に立つこぎれいな家々のそばに、思い思いの大きな雨水タンク（約2万3千～2万7千リットル）があり、タンクに蔓薔薇をからませている家もありました。「北半球の雨水とは違いますよ」。そういわれて飲みましたが、くせのない、やわらかな味でした。

ライだけではなくて、この一帯には「全村雨水利用」の地域が結構多いのです。住民は、遠い川にダムを造って水道をひく「大きな技術」よりも、雨水タンクという開拓時代からの「小さな技術」を選んでいるのです。この国の雨水タンク製作の技術は進んでいて、2万2千リットル入りの巨大タンクが15万円ほどで手

に入ります。

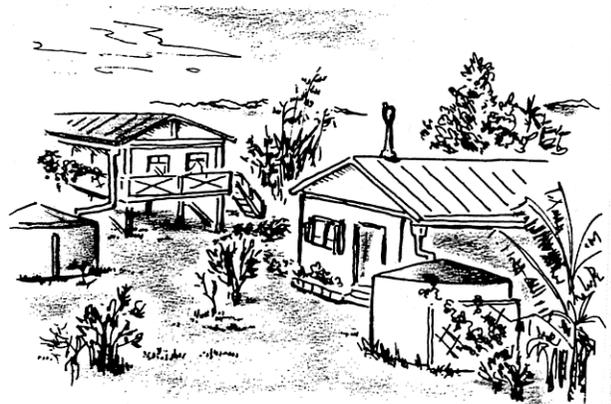
タンクの壁は15センチ以上もある厚いもので、セメントにステンレスあるいは鉄製の網を幾重にも重ねて、丈夫なものにしています。屋根の樋に工夫がしてあって、雨がタンクの容量を上回った時、あるいは激しすぎて樋からあふれそうな時は、もう一つのタンクにためる仕組みがありました。

『雨水タンクの掃除をします』という「TANKMAN」の広告ビラを見ましたが、「掃除？ あまり考えないね。中をきれいに保つには、タンクのなかを真っ暗にしておくのがコツだね」という声も聞きました。

海辺には、オークランド大学の海洋研究所があり、この研究所も雨水利用です。計30万リットルのタンク群が丘の上にありました。むろん、雨水だけでは足りず、海水や地下水も使いますが、飲むのは雨水です。

日本では天水に頼っていた地域も次第に水道を普及させてゆきました。空気の汚れて雨水を飲むのが難しくなったこともあります。私たちの頭に「大きな技術→進歩」という図式があることは否定できません。

ニュージーランドの村びとが、開拓時代そのままの雨水利用——水源自立を続けている営みに、自然と融和して生きる姿勢を見ました。汚れていない雨水を飲む。その単純明快なことが私たちの暮らしから遠ざかってしまっている事実を直視したいと思いました。



## 21世紀への展望

関西雨水利用を進める市民の会

■ 会長 赤井 昭治郎

都市は、コンクリート構造物が乱立し、道路はアスファルト舗装で覆われ、夏はヒートアイランド現象を引き起こしています。道路には車があふれ、その排気ガスが大気を汚す大きな要因になっています。人間の利便性向上のために「自然」を破壊・排除してきた、その報いかも知れません。

21世紀を迎えるこれからは、自然環境と共生する都市環境を創ってゆく必要があると思います。都市の緑化（公園などの緑化に加え、建物の屋上や壁面・道路や防音壁などの特殊な緑化）の拡大や雨水の有効利用が大きなポイントになるでしょう。

関西の雨水利用は、昨年度の調査では54ヶ所、東京に比べ非常に少ないのが現状です。この理由は、関西には琵琶湖という大きな水瓶があり、水不足を肌で感じていない地域であり、大きな地震は起こらないと大半の人が思っていたほど、非常時意識の少ない地域であるからでしょう。しかし、あの悪夢のような阪神大震災で、自然の恐さと都市機能のもろさ、「水の大切さ」を痛感し、非常時意識を持つ人が確実に少しずつ増えてきているのも確かです。

私共「関西雨水利用を進める市民の会」は、21世紀に向けて、自然の恵みと共生する都市を目指し、(1)専門メーカーや学識経験者を招いた勉強会・セミナーと施設見学会を通じ、新しい会員を勧誘し、会員の雨水関連の知識向上を図り、(2)雨水利用を行いたい方への資料提供と支援を行い、また、(3)全国雨水利用を進める市民の会との情報交換を行いながら、一人でも多くの人を啓蒙し、一つでも多くの雨水利用施設が増えるように活動したいと思っております。



## 21世紀は雨水との共生時代

沖縄県雨水利用を進める市民の会

● 事務局長 伊礼 弘

謹んで初春のお喜びを申し上げます。

沖縄では、正月に「若水（ワカミジ）ウサギヤピラ！（若水をどうぞ！）」と、子供たちが元旦の朝早く、大声をかけながら親戚の家々を挨拶して回る風習がある。子供たちは行く先々でお年玉が貰えた。

また、正月の朝まだき集落の、共同井戸（拝みの対象となっていた）から汲んできた若水を仏壇に供え、残った若水でお茶を立て、その年の家族の幸せを祈ったものでした。そのため若水汲みは、子供たちのつとめでもあった。水と人が向き合うことから新しい年が始まる。

古より、沖縄は地理的条件により水事情には厳しいものがあり、その厳しさゆえに先人たちは水と共生する智慧を獲得し、それが暮らしのなかに息づいていた。しかし、近年ではその風習を育んできた共同体組織が崩壊し、島人の心から水への畏敬の念が急速



に失われつつある。

沖縄県の年間降雨量は本土より約23%も多い。しかし、地理的・社会的条件により、一人当たりの水資源賦存量は本土の約半分である。沖縄県の水資源の『量』は、すぐれて社会活動全般を規定するものである。今後の水需要の増加とダム用地が残されていない状況を考えると、既存の水資源に加え、個人でも利用可能な雨水を積極的に活用する、多面的な方策が急がれる。そのことが、先人たちの水への思いをつなぎ、新しい時代の展望を切り開く鍵である。

私共は、雨水利用の推進を図るため、昨年末に沖縄市に『雨水利用の推進と雨水利用施設への公的助成制度』の要請活動をおこなった。その結果、行政側から「市の政策として公的助成制度の導入を検討したい」という回答がなされた。大きな一歩である。

今後とも全国の雨水利用を進めている皆様をはじめ、県民及び関係機関と連携して、沖縄県の雨水利用を多面的に拡大する活動に邁進したい。皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



## 世界一の豪雪地から 雨雪利用を考える

●○ 利雪しんせつ協会 ●○

会長 樋口 利明

深刻な不況の地域から、精神的にも物理的にも経済的にも元気になる、雨と雪を利用した景気浮揚策を提案します。

期待と不安をあおるわけではありませんが、どの地域であれ、阪神大震災のような天災人災がいつ訪れてもおかしくはないと思います。

いまこそ、私たちの『命・安心・快適』に何が本当に必要かを、暮らしの現場から、具体的に考え、行動する時だと考えます。不況時にこそ、日常の中で非常時のことを想定しながら、より安心・快適でかつ災害に強い町づくりを進めていくべきです。

自明のことながら、いざ災害となれば、生命維持の前提である空気と水はいつきも欠かすことができません。今こそ、命の水を確保し、供給するための『場としくみ』を、景気浮揚策として、全国的に早急に実現すべきであると主張します。

特に豪雪地では雪の利用は、いざという時の水源としての利用や、あるいは電気が断たれた時の冷熱エネルギーによる農産物・食品の貯蔵にたいへん有効になります。

これから当分続くであろう地球温暖化のなかで、ますます、命と生活を維持する水と食料の確保が重要視されます。

具体的には、公共事業の一環として、「雪捨て場」や公共施設の「雪水貯蔵基地」をつくり、地域冷暖房や食料備蓄などの災害対応拠点として活用することを提案します。また、雪室の利用を通して、地域内外の人・物・金の交流を推進することも可能であると考えています。

信濃川の表流水・伏流水、表層地下水・深層地下水の保全と活用などについても、世界一の豪雪地といわれる新潟県十日町から、具体的に提案・実行してまいります。



# シリーズ 家庭用雨水タンクへの助成制度

## ～ その① 助成制度のある地方公共団体はどこ? ～

● 市川 龍 (情報部会所属)

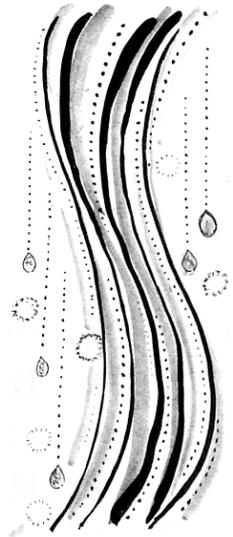
情報部会では、雨水利用に関するさまざまな資料を収集し、整理する作業を行っています。それらの中には、雨水利用に対して積極的な地方公共団体から提供される行政資料も含まれており、私たちは具体的な施策を知ることができます。

ビルなどの大タンクへの助成や地下水をよみがえらせ、都市洪水を防ぐ雨水浸透柵設置への助成など、自治体の雨水利用の取り組みは多様で、着実に増加しています。

それらの報告は別の機会にゆずることにして、とりあえず家庭規模の雨水タンクへの助成制度を4回にわたって特集します。次回以降、「具体的な助成の内容」「助成の申し込みに必要な書類や手続き」「助成制度の利用状況」という形で連載する予定です。

さて、まずどの地方公共団体に住んでいれば、この助成制度を受けることができるのか。それについてまとめたものが、下の一覧表です。「天水尊」や「雨水くん」のように製品化された雨水タンクを設置する場合、または、下水道整備により不用となる浄化槽を改造して雨水タンクとして再利用する場合に助成金が交付されます。いずれの場合にも助成してくれる地方公共団体もあります。

さらに詳しい内容を知りたい方は、最寄りの役所にお問い合わせください。



地方公共団体		タンクの種類	製品化された雨水タンク	不用の浄化槽を改造した雨水タンク	地方公共団体		タンクの種類	製品化された雨水タンク	不用の浄化槽を改造した雨水タンク
千葉県	千葉市		—	○	東京都	調布市	○	—	
	越谷市		—	○		多摩市	○	—	
埼玉県	志木市		○	○	神奈川県	厚木市	○	—	
	川口市		○	○		藤沢市	—	○	
	吉川市		—	○		鎌倉市	○	○	
	宮代町		○	○		南足柄市	—	○	
	桶川市		—	○	愛知県	豊田市	○	○	
	所沢市		○	—		蒲郡市	○	—	
	川越市		○	—	岡山県	倉敷市	○	○	
東京都	墨田区		○	—	香川県	高松市	○	○	
	葛飾区		○	—	鹿児島県	鹿児島市	○	—	
	台東区		○	—	福岡県	筑紫野市	○	○	
	三鷹市		○	—					

# 会員のための連続講座のお知らせ

## PART 2

**第3回 1999年3月13日(土)**  
 午後1時～4時  
 講師 小林 享 (前橋工科大学教授)  
 「楽しもう、雨の景観」  
 場所 学士会館本館 (神田)  
 会費 1,000円

**第4回 1999年4月17日(土)**  
 午後5時～8時  
 講師 佐藤 清  
 「雨水利用と暮らし方・家づくり」  
 場所 学士会館本館 (神田)  
 会費 2,000円 (夕食付き)

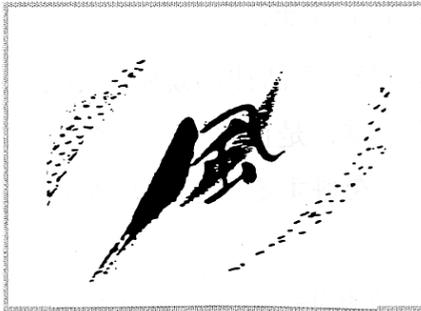
**第5回 1999年5月15(土)**  
 午後1時～4時  
 講師 安藤 勝治他  
 「よりよい雨水タンクをめざして」  
 場所 学士会館本館 (神田)  
 会費 1,000円

※ 小林享先生の専攻は景観工学です。歴史や風土、文化に培われた、景観にふさわしい雨、心を癒してくれる雨との「出会い」を大切にしたい、ということがテーマになります。雨の神への信仰、地名に残された雨、雨のことは、芸術作品にあらわれた雨などについて、じっくり語っていただきます。

◆ **ブラジル・ペルー、国際会議と雨水調査参加者募集**

ブラジルでの雨水利用国際会議に参加し、南米の雨水利用をその目で確かめたいという人を募集します。日程、費用など大変さもありますが、海外視察(それも南米)のチャンスは少ないので、ぜひ検討してみてください。

- ・日程 6月26日～7月11日
  - ・費用 40万円程度
  - ・行き先 ブラジル・ペルー
  - ・申込み 2月26日(金)までに事務局へ。
  - ・FAX 03-3611-0574
- 航空券をとる都合上、締切りを早めに設定しました、



\* \*  
 ◆ **佐藤清(清)さん、村瀬さん、台湾へ**

一雨水利用動物園オープン  
 タイペイに雨水利用を取り入れた動物園が、2月下旬にオープンします。お二人は、その記念講演と「雨水利用技術者養成講座」の講師として招かれています。台湾でも雨水利用が注目・実践されているのですね。帰国後の報告を楽しみにしましょう。

\* \*  
 ◆ **雨水カレンダー 完売しました。**

評判の良かった「雨暦」、おかげさまで完売しました。ご協力ありがとうございました。

◆ **「雨水事典」→「雨の事典」に改名**

去る1月9～10日、東京渋谷区の銀杏荘で、事典制作チームの合宿が行われました。2日にわたる会議の結果、かなりの進捗があったようです。詳細は、次号での報告にゆずりますが、事典の正式名が

「雨の事典」となったことをお知らせします。「雨水」と「雨」では、事典のどこが違うのか、なんてことはさておいて、心のなかで「雨の事典」と呟いてみてください。優しい、広がりのあるいい名前だと思いませんか。

2000年10月には手に取ることができるそうです。

\* \*  
 ◆ **墨田区の雨水利用技術者講座**

墨田区では、区内在住・在勤の建築士・管工業者を対象に、雨水利用設計のノウハウの習得を目的として、1月から5回シリーズの講座を開いています。内容は「雨水利用施設設計のポイント」「雨水利用の経済製とノウハウ」「雨水タンクの現状と課題」「現地視察」「雨水利用技術のアイデア」などです。

このような講座を通して、雨水利用の知識をもつ技術者が増えることは、「市民の会」にとっても喜ばしく、励まされます。

電話で

弘はは



牛野くみ子さん

千葉の干潟を守る会  
副代表

Q 最近、本を出版されたそうですね。  
千葉県自然保護連合という会から年報として『房総の自然と環境』を出版しました。この本に私は「雨水タンクから見えるもの」という文章を書いているんです。

(牛野さんは編集長さんです。)

Q 雨水利用との関わりは？

千葉大学の石川トシオ先生に誘われて、94年の東京国際会議に出席した時からです。自宅に天水尊を設置して、洗車や庭の水やり、愛猫のトイレの洗いに利用しています。(猫もやってる雨水利用！)

Q 三番瀬の保全運動にも関わっていらっしゃいますね。

自宅の建っている地先で海が埋め立てされることに疑問を感じたのがきっかけでした。

今年になって、名古屋の藤前干潟の埋立計画が中止になり、千葉県でも三番瀬「開発」の見直し気運が高まっています。少し期待が持てる雰囲気が出てきました。

雨水利用など水の有効利用が進めば三番瀬などに巨大な下水処理場を造る計画もなくなります。日本の玄関口である東京湾の自然を破壊しつくすのは、どう考えてもおかしいと思いますよね。

雨水利用運動も更なる飛躍が予感されるし、今年は良い年になるような気がします。

(今)

## 事務局 だより

田中 清子

2月11日、東京は久しぶりに雪が降り、街全体が薄化粧しました。その雪も翌朝には融けたので、空っぽの雨水タンクはたちまち満水になり、すぐにオーバーフローしてしまいました。

実は最近まで、降雪が降水量として集計されるという事実をよく知りませんでした。雪やアラレなどの固体は、解かして水に換算して測定するのだとか。教えてもらって納得している次第です。11日の積雪、カラカラ天気、東京にとってまさに「干天慈雨」だったのではないのでしょうか。

さて、前号でお知らせした「雨水利用連続講座」が始まりました。第1回目はすでに終了し、この会報が届くころには2回目も終わっているはず。定員25名のこじんまりした会場は手狭ではあるのですが、コミュニケーションがとりやすく、講師とじかに接するにはもってこいでしょう。

テーマは各回とも興味深く、充実しています。定員に若干のゆとりがありますので、事務局までお問い合わせください。

\*

\*

なお、現在第1期の途中ですが、気の早いことに第2期の連続講座の企画の声が上がっています。今回のテーマを更に深めたり、新しいテーマを探したり、招きたい講師がある方は、ぜひ事務局までご意見をお寄せ下さい。会員が望む企画を実現し、勉強の機会を通して、「市民の会」の活動を充実させていきましょう。



後編集

前号の「雨水タンクリスト」にミスプリントがありました。お詫びして、以下のように訂正いたします。

(有) 安藤電気製作所の電話番号は0429-23-0872です。(最後の数字が3になっていました。)

また、(株) タニタハウジングウェアの製品名は「パッコン」です。(パッコン) になっていました。

雨水利用連続講座は、和やかななかにも熱気があって、成功裡に回を進めています。その内のいくつかの講座を「資料特集号」としてお届けするために準備中です。

今回、雨水タンク助成制度のページは、非会員の小嶋君子さんがボランティアでワープロを担当してくれました。…助かった！

(糸賀 幸子)